

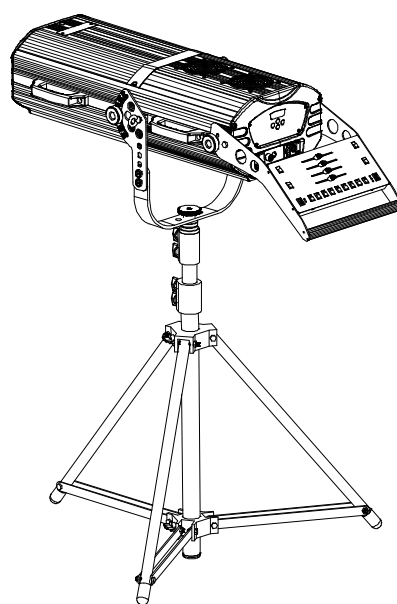
iSolution

Your integrated Solution

IF-1200&575

iSolution シリーズフォローピンスポット

日本語取扱説明書



IF-1200 & 575 日本語取扱説明書

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copyright ACME Lightng Co.,LTD
本書の翻訳権はグラフィカ株式会社がライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

目次

1. 安全に関する記述	3
2. 本製品の技術仕様	5
3. ランプ	6
4. 灯体をセットアップする	7
4.1 コントロールパネル	7
4.2 メインファンクション	8
4.3 ホームポジションの調整	13
5. 灯体のオペレーション	10
5.1 DMX コントローラーを使った操作	10
5.2 手元のコントローラーを使った操作	10
5.3 DMX512 チャンネルプラン	13
5.4 DMX512 を使ったケーブル接続	14
6.トラブルシューティング	13
7.日常のお手入れとメンテナンス	14
ヒューズを交換する	15
8.製品の保証	16

1. 安全に関する記述



- この日本語説明書には、本製品を使用する上で必要なさまざまな事項に関してあらゆる記述がなされています。このため、製品の近くにこの説明書を設置し、すぐに参照できるように心がけてください。また、将来本製品を他人に譲渡するときには、この説明書を必ずお渡しください。
- 本体が届いたら、まず本体にいかなるダメージがないかどうか、また指定の付属品があるかどうかを確認してください。本製品における不良や付属品不足等に対する初期不良交換期間はご購入の日を含め7日間です。
- 本製品に必要な電源は AC208V 50/60Hz(IF-575 は 100V)です。本製品は日本の電力事情に対応するよう輸入品でありながら法律に基づいて改良を行っているものです。基準外の電圧を加えないようお願いします。
- 本製品に必要な適合ランプは HMI およびその互換ランプです。(弊社推奨: HMI 1200W : 575W は HMI575) 基準ランプ以外のランプは絶対にお使いにならないでください。
- できるだけ本体にはアースをお取りいただくようお願いします。本体に付属している電源コードにはアース端子がついており、簡単にアースを取り付けられるようになっています。
- 本製品は屋内使用を前提に設計されています。屋外で使用する場合には外気温、湿度、そして雨の影響を受けないようにしてください。また、防水機能はありません。
- 本製品を設置する場合、風通しのよい場所でなおかつ周囲 50cm 以内には何も無いところに行ってください。設置をする際、通気孔をふさがないようにしてください。
- ランプを交換する際もしくはメンテナンスなどをする場合、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。
- ヒューズは正しい、容量がオリジナルのものと同じものをお使いください。
- オペレーションの際、燃えやすいものの近くで行わないようにしてください。発火の危険性があります。
- 本体を壁付けにしたり天井機構から吊り下げを予定している場合、安全ワイヤーの使用は必須です。必ず本体とともにお求めいただき、ワイヤーと一緒に設置するようにしてください。
- 最大周囲環境温度 T_a は、約 40°C です。外気温がこの温度より高い場合ご使用をお控えください。
- 運用中、本体の内部温度は最大 85°C まで上昇し、またランプが点灯している間は常に爆発の危険性をはらんでいます。運用中はカバーをあげたり、また発熱部分に触らないようお願いします。また、ランプ交換などで本体のカバーを開ける際は少なくとも電源を切ってから 15 分後、ランプの冷却が完全であることを確認した上で行ってください。
- 運用中、本体に明らかな異常を発見した際は直ちに使用を中止し、お求めの販売店もしくは Graphica サービスセンターまでご連絡ください。本体は非常に複雑な部品で構成されており、ユーザー様サイドで保守できるパーツはありません。ご自身で修理を行わないでください。症状をさらに悪化させる可能性があるだけでなく、製品保証の対象外となります。
- 本体の電源をディマーなどの調光装置から取らないでください。

- 本体には高圧電流が流れています。本体の電源が入っている間はいかなる内部の配線に手を触れないでください。

【危険!!!】

- いかなる電氣的ショックや火災から本他を保護するため、湿気等の多い環境では使用しないでください。
- ランプは点灯後約 700℃近くに達し、またランプが点灯しているか否かにかかわらず常に爆発の危険性があります。本体のランプを交換するときには必ず以下の事項をお守りください。
 - 出来るだけ長袖で難燃性のものを着用し、皮手袋を使ってください。
 - ランプ交換に際してはゴーグル等目を保護するものを着用するよう心がけてください。
 - ランプが十分に冷却されていることを確認してください。
- ランプを装着していない状態で電源を入れないでください。バラストやイグナイターなど、各種ランプ点灯装置に対して重大なダメージを与えます。
- 本体のハウジングや光学レンズ、灯体内部の紫外線フィルター等が破損している場合、直ちに販売店に連絡し修理を依頼してください。本体内部の温度を以上に上昇させ、大変危険です。
- ランプが点灯している場合、ランプの光を直視しないでください。目に対して非常に大きな損傷を与える場合があります。

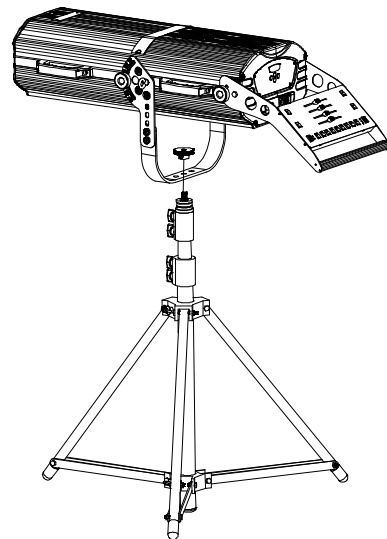
【注意】

本製品にユーザー側で保守できる部品はこの説明書に記載されている事項以外は一切ありません。

修理に関しては決してご自身で行わず、お求めの販売店もしくは後述の Graphica サービスセンターにご相談ください。

【設置に関する一般的事項】

本体を設置するときには、本体付属のブラケットおよび、スタンドを使うようにしてください。また、スタンドのねじ穴に図のように適切にハンガーブラケットが完全に装着されているかどうか確認してください。ご使用いただけるブラケットの耐荷重は80Kgです。



IF-1200 & 575 日本語取扱説明書

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copyright ACME Lighting Co.,LTD
本書の翻訳権はグラフィカ株式会社がライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

2. 本製品の技術仕様

電源入力: 208VAC (575 は 100VAC)50/60Hz(本体に周波数切り替えスイッチ付)

適合ランプ: IF-1200:HMI 1200W/GS, IF-575: 575W/ GS もしくはこれに互換するランプ

光学システム: スタンダード 13° フォーカスビームアングル(フォーカスは DMX 経由でコントロール可能)

シャッター/ディマー:

ブラックアウト、0~100%連続可変ディマー

バリエブルストロボ(1~16 回/秒)

パン、チルト: パン=360° チルト=90°

カラーホイール:

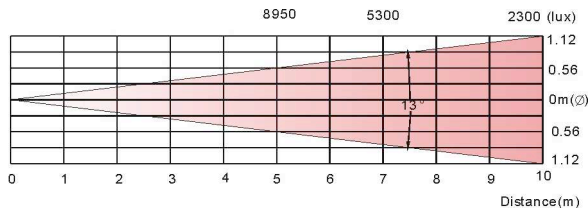
8 ダイクロイックカラー+ホワイト

カラーホイール可変スピード、レインボーエフェクト

DMX チャンネル: USITT 規格 1990 年バージョン

チャンネル 1 = シャッター
チャンネル 2 = アイリス
チャンネル 3 = カラー
チャンネル 4 = 色温度
チャンネル 5 = ディマー
チャンネル 6 = フォーカス

ビームアングル



3. ランプ



ランプを交換する際もしくはメンテナンスを行うときには、電源を切った後 15 分以上経過し、ランプが冷え切っていることを確認した後行ってください。

本製品に使用されているランプは通常「メタルハライドランプ」もしくは「ディスチャージランプ」と称し、放電の原理を使っていることから内部圧力は非常に高く、ランプが点灯しているか否かにかかわらず常に爆発等の危険を持っています。そのため、ランプを交換されるときにはできるだけ専門の業者などに依頼するようにしてください。ユーザー様自身で交換される場合には、下記記載の注意事項をお守りください。

(注意事項再掲)

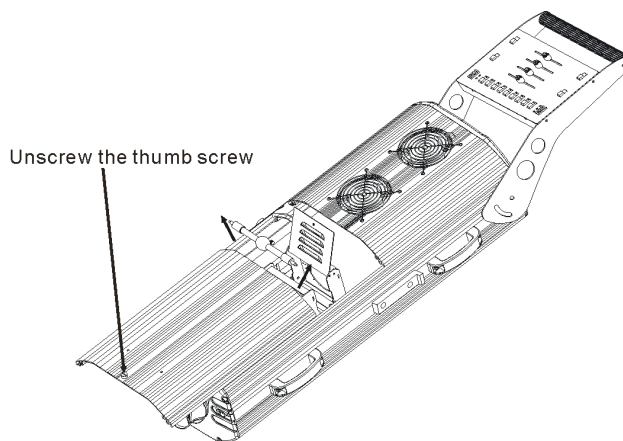
- ランプは点灯後約 700°C 近くに達し、またランプが点灯しているか否かにかかわらず常に爆発の危険性があります。本体のランプを交換するときには必ず以下の事項をお守りください。
 - 出来るだけ長袖で難燃性のものを着用し、皮手袋を使ってください。決して素手で触らないでください。
 - ランプ交換に際してはゴーグル等目を保護するものを着用するよう心がけてください。
 - ランプが十分に冷却されていることを確認してください。
- ランプを装着していない状態で電源を入れないでください。バラストやイグナイターなど、各種ランプ点灯装置に対して重大なダメージを与えます。
- 本体のハウジングや光学レンズ、灯体内部の紫外線フィルター等が破損している場合、直ちに販売店に連絡し修理を依頼してください。本体内部の温度を異常に上昇させ、大変危険です。
- ランプが点灯している場合、ランプの光を直視しないでください。目に対して非常に大きな損傷を与える場合があります。

<特に留意すべき事項>

ランプは紫外線成分を多く含んでいるため、人間の肌や特に目に大きなダメージを与えます。

交換ランプ: OSRAM HMI 1200W (IF-575 の場合は HMI 575W) もしくは認定した互換ランプ

1. ランプ交換などランプ部分にアクセスする際は常に電源をお切りになり、ランプの冷却を待ってください。
2. ランプを素手で触らないでください。通常は皮手袋など耐熱性のあるグローブを使用して行います。誤って触れてしまった場合には、必ず無水アルコールなどでランプのガラス部分を拭いてください。
3. ランプの発光時は常に多量の紫外線を放出し

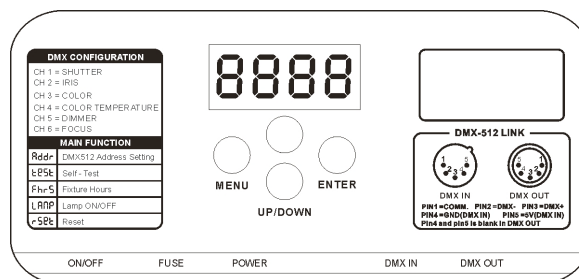


ます。ゴーグルなどを装着し、また長袖などを着用しできるだけ肌の露出を抑えてください

4. ランプの寿命は平均で約 1000 時間ですが、この時間経過とともに爆発の危険性が比例します。必ずメーカーに指定された時間以上ランプを使用しないでください。
5. ランプの発光はランプとリフレクター(反射材)の位置関係によって大きく変化します。ランプがリフレクターの真ん中にくるように注意して装填してください。

4. 灯体をセットアップする

4.1 コントロールパネル



ディスプレイ

ディスプレイには、さまざまな灯体の情報や機能メニューなどが表示されます。

各ボタンの詳細

MENU	各種動作プログラムの設定変更に使用します。
DOWN	選択した前の機能を表示します。
UP	選択した次の機能を表示します。
ENTER	現在選択中の機能を確定します。

灯体のオン・オフ

ON/OFF スイッチにより電源を入り/切ります。

フューズ

フューズはフューズボックスに内蔵されています。

電源ケーブル

付属の電源ケーブルを使用し、電源コンセントに接続してください。

DMX input/output (DMX 入出力)

3ピン XLR コネクタを使用した DMX512 信号接続用の各種端子です。

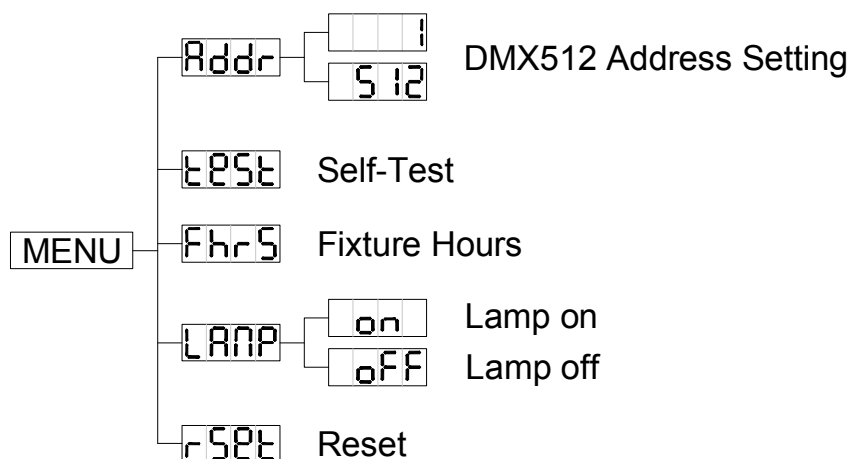
4.2 メインファンクション

プリセットされた機能を選択するには、MENU キーを目的の機能が表示されるまで数回押し、ENTER キーで機能詳細に入ります。この際、ディスプレイは点滅を始めます。

次に、DOWN UP キーを使ってメニューの中に表示されている各種モードを選択し、目的のモードを選択したら再度 ENTER キーを押して確定します。ここで 8 秒間何も行わなかった場合、自動的にメインメニューに戻ります。

何も変更を加えず、メインメニューに戻るには単に MENU キーを押します。

【機能の詳細】



Addr DMX512 接続におけるスタートアドレスの設定

MENU キーを数回押し、**Addr** を表示させ、ENTER キーを押します。(ディスプレイは点滅を始めます)

DOWN もしくは UP キーを使って、この灯体における DMX チャンネルを定義します。チャンネルの定義が終了したら ENTER キーをもう一度押すとアドレスが確定します。(自動的にメインメニューに戻ります)

何も変更を加えない場合は 8 秒間以上そのまま放置するか、単に MENU キーを押します。

グラムです。パンムーブメント角度は左右に 160°、チルト角度は前面方向に 75° 背面方向に 15° です。

を押します。(自動的にメインメニューに戻ります)

何も変更を加えない場合は 8 秒間以上そのまま放置するか、単に MENU キーを押します。

TEST セルフテスト

MENU キーを数回押し、**TEST** を表示させ、ENTER キーを押します。本体はテストシーケンスプログラムの再生を始めます。メインメニューに戻る場合には、MENU キーを押します。

Fhrs

灯体運用時間の表示

MENU キーを数回押し、Fhrs を表示させ、ENTER キーを押します。表示された数字が出荷時からの連続運用時間の統計表示です。この設定は元に戻すことができません。メインメニューに戻る場合には、MENU キーを押します。

LAMP

Lamp Display

MENU キーを数回押し、LAMP を表示させ、ENTER キーを押します。DOWN、UP ボタンで on (ランプ点灯モード) or off (ランプ消灯モード) の各モードを選択します。決定後 ENTER を押しメインメニューに戻るか 8 秒放置すると自動的にメインメニューに戻ります。

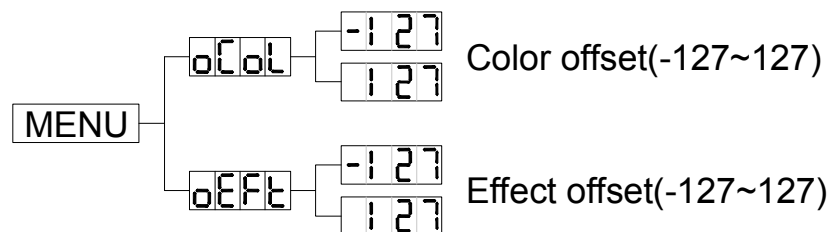
rSet

灯体リセット

MENU キーを数回押し、rSet を表示させ、ENTER キーを押します。灯体のリセットされ、ホームポジションに戻ります。メインメニューに戻る場合には、MENU キーを押します。

4.3 ホームポジション調整

ホームポジションを調整する際は、MENU ボタンを 5 秒以上押すことにより、ホームポジションに入ります。まず最初に FAdj モードでフォーカスを調整し、以下の調整に入ります。



oCoL

Color offset

MENU ボタンを 5 秒以上押し、オフセットモードに入ります。DOWN・UP ボタンで oCoL を表示します。ENTER ボタンで確定するとディスプレイが点滅します。DOWN・UP ボタンでカラーの位置を調整します。カラーの調整ができましたら ENTER キーを押すと機能調整メニューに戻ります。何も変更しない場合は MENU ボタンを再度押すか何もしないで 8 秒以上放置するとメインメニューに戻ります。

oEFt

Effect offset

MENU ボタンを 5 秒以上押し、オフセットモードに入ります。DOWN・UP ボタンで oEFt を表示します。

ENTER ボタンで確定するとディスプレイが点滅します。DOWN・UP ボタンでゴボの位置を調整します。ゴボ1の調整ができましたら ENTER キーを押すと機能調整メニューに戻ります。何も変更しない場合は MENU ボタンを再度押すか何もしないで8秒以上放置するとメインメニューに戻ります。

5. 灯体のオペレーション

IF-1200 及び IF-575 製品では、下記の2通りでの操作が可能です。

1. 通常の DMX コンソール(制御卓)を使った制御
2. 本体後部の制御パネルを使った操作

DMX スタートアドレスを変更した場合は、電源を切らなくてもアドレスの変更はその時点から有効です。本体の電源を入れると、本体は全ての機構が正常であるかどうかのセルフテストを行い、その後ホームポジションに移ります。そのため、20秒間はメカニカルノイズが発生しますが、これは故障ではありません。この初期動作が終了した後 DMX 信号を受信するか、内部プログラムの再生に移ります。

5.1 DMX コントローラーを使った操作

一般的な DMX 調光用コンソールを使う場合、あらかじめ灯体のスタートアドレスを設定しておく必要があります。

メニューボタンを数度押し、**Addr** と表示させ、ENTER ボタンを押します。(ディスプレイは点滅を始めます)

DOWN もしくは UP キーを使って、目的の灯体の DMX スタートアドレスチャンネルを指定します。チャンネルの選択が終了したら、ディスプレイの点滅が停止するまで ENTER キーを押し続けるか、そうでなければ8秒間そのままの状態にしておくと自動的に選択したアドレスが確定します。変更を行わず、メイン機能に戻るには MENU キーを押します。本製品は DMX チャンネルを6チャンネル分占有します。したがって、最初の灯体のスタートアドレスを1とした場合、順に7,13,19といった具合になります。

6 チャンネル:

			1
--	--	--	---

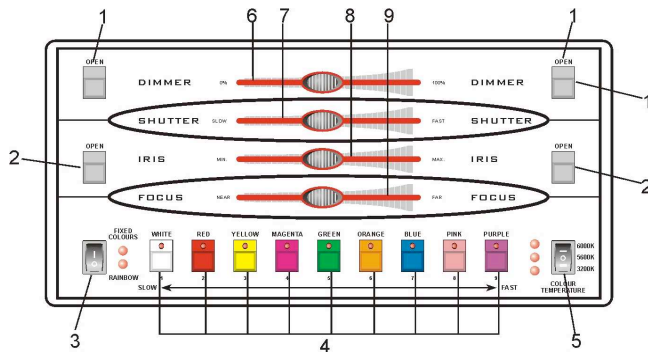
			7
--	--	--	---

			13
--	--	--	----

			19
--	--	--	----



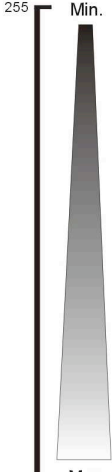




5.2 背面操作盤の使用法

DMX6 チャンネルで操作できる IF-1200、IF-575 は他に特別のコントローラーの必要なしに、背面操作盤で制御可能です。電源を投入後、本体は自動的にセルフテストプログラムを開始します。これらの初期動作後本体は操作準備完了となり、操作可能となります。

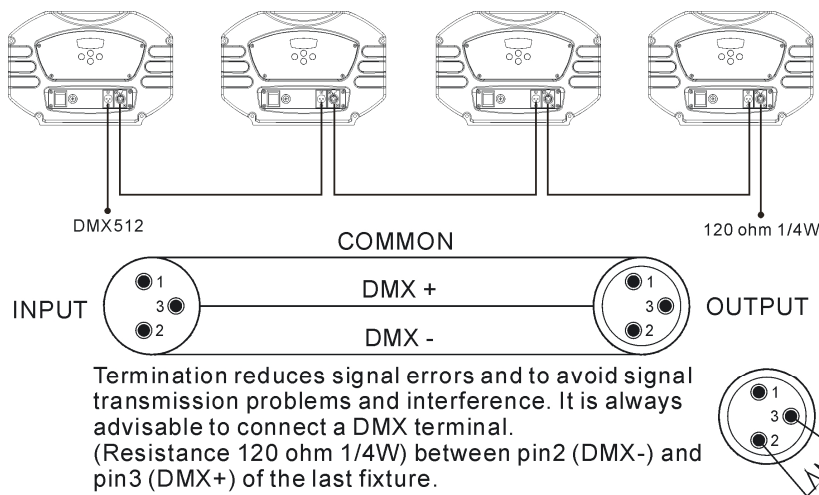


1. **OPEN ボタン**: このボタンを押し続けるとライトの光は最高となり、シャッターは最高値となります。ボタンを離すと、ライトの光量とシャッター値は初期状態となります。操作方法をより簡便にするため、パネルの両端にボタンを設けてあります。
2. **OPEN ボタン**: このボタンを押しつづけるとアイリスが最大になります。ボタンを離すとビーム角は設定している値に戻ります。操作方法をより簡便にするため、パネルの両端にボタンを設けてあります。
3. **色指定 & レインボースイッチ**: このスイッチを RAINBOW にすると、レインボー機能が利用可能となります。ライトボタンを押す事によりレインボー機能のスピードを調整する事が出来ます。このスイッチを **FIXED COLOURS** にするとレインボー機能は停止し、色選択可能な通常モードになります。各パラメーターはメモリされており、最終の設定状態に瞬時に戻ります。
4. **COLOUR ボタン**: これらの 9 色のボタンはそれぞれ of 白、赤、黄色、マゼンタ、緑、オレンジ、青、ピンク、紫です。このボタンを押す事によりダイレクトに色を選択する事が出来ます。
5. **COLOUR TEMPERATURE スイッチ**: 色温度を選択するスイッチです: 通常の 6000K のほか、5600K、3200K に設定可能です。
6. **DIMMER フェーダー** このフェーダーにより 0%~ 100% の範囲で光量を調整する事が可能です。
7. **SHUTTER フェーダー** 緩やかなシャッタースピードから早いスピードへ。シャッタースピードを調整できます
8. **IRIS フェーダー** 光径が最小から最大へ、光径を調整できます。
9. **FOCUS フェーダー** 近→遠とピント調整が可能です。

5.3 DMX512 チャート

DMX-512 Configuration					
Channel 1	Channel 2	Channel 3	Channel 4	Channel 5	Channel 6
Shutter	Iris	Color	Color Temperature	Dimmer	Focus
248-255 Open 247 Fast shutter  016 Slow shutter  008-015 Open 000-007 Blackout	255 Min.  0 Max.	247 Fast  192 Slow 191 Slow  128 Fast 113-127 Pink 099-112 UV purple 085-098 Light blue 071-084 Orange 057-070 Green 043-056 Magenta 029-042 Yellow 015-028 Red 000-014 White	171-255 6000K 086-170 3200K 000-085 5600K	255 100%  000 0%	255  0

5.4 DMX512 接続方法



1. 本製品は DMX の接続に 3 ピン XLR コネクタを使用しています。5 ピンのコネクタの場合は、3 ピンに変換する必要があります。詳しくはお求めの販売店にご相談ください。
2. 複数の灯体を接続する場合、最後の灯体の DMX 出力部分には「ターミネーター」と呼ばれる終端抵抗を接続す

る必要があります。これは、上図のとおりピン2とピン3の間に 120Ω の抵抗を挿入した XLR プラグを接続するものです。製品オプションとしてございますので、詳しくはお求めの販売店にご相談ください。

3. 接続の仕方は、かならず 1 つ目の灯体の出力から 2 つ目の灯体の入力に、といったいわゆる「デジージェイン」接続と呼ばれる方法で行います。音響機材でよく見られるような分岐ケーブル(いわゆるYケーブル)などは機材に対して DMX 伝送上大きなダメージを与えますので絶対におやめください。
4. 本製品は、本体電源が OFF の状態にあるときは、自動的に DMX 出力をスルーする構造となっています。
5. それぞれの灯体は、1-512 までの間の任意のチャンネルを設定する必要があります。
6. 通常、DMX 接続に使われるコネクタは5ピンのものよりも3ピン XLR が主流となっています。

3 pin XLR: Pin 1: GND, Pin 2: Negative signal (-), Pin 3: Positive signal (+)

5 pin XLR: Pin 1: GND, Pin 2: Negative signal (-), Pin 3: Positive signal (+)

6.トラブルシューティング

この章では、本製品をお使いいただく上でさまざまなトラブルを未然に防ぐために、また本体の動きがおかしいなどの不調の際に役立つピックです。ご使用前に熟読していただくことを強くお勧めしますほか、万が一故障と見られる場合でも輸入元や販売店等に返送する前に、必ずこの章での項目をご一読ください。

A. 灯体が動きません。もしくはランプが点灯せず、ファンが動作しません。

1. 電源のコネクタおよびフューズをチェックします。
2. 電源コンセント側からの供給電圧をテスター等で測定します。
3. 電源 ON 表示の LED が点灯しているかどうかをチェックします。

B. DMX 信号を受信しません。

1. DMX ケーブルに断線やコネクタ部分の接触不良がないかどうかを前提して調べます。
2. DMX 信号を正常に受信しない場合、アドレス設定の相違が考えられます。お使いの制御コンソール上のチャンネル(アドレス)が正常かどうか確認してください。
3. 別の DMX コントローラーを使用してみてください。症状が改善されることがあります。
4. DMX ケーブルの配線の近くに高圧電流のケーブルがないか、またケーブルはマイクケーブルなどではなく専用の DMX ケーブル(110Ω)であるかどうかを確認してください。

C. ある特定のチャンネルが正常に作動しません。

1. ステッピングモーター部分が損傷していることが考えられます。残念ながら、この場合サービススポットによる修理が必要です。
2. もしくは、このステッピングモーターを動作するのに必要な「ドライバーIC」や、メイン基盤の損傷が考えられます。この場合もサービススポットによる修理を要します。

D. ランプが断続的に消灯してしまいます。

1. ランプのソケットなどにランプがきちんと装着されているかどうかを確認してください。

2. 電源電圧を確認してください。入力電圧が規定以下の状態にある場合、トランスの点灯に影響が出る場合があります。
3. 複数灯体を接続している場合、電源極性を同一にする必要があります。検電ドライバーなどを用いて位相を合わせてください。また、アースをきちんと取ってください。
4. 本体の内部温度が異常に上昇していることが考えられます。ファンが破損している場合は交換が必要です。もしもファン等に異常がない場合、外界の放熱対策を講じる必要があります。(クーラーによる冷却など)

7.日常のお手入れとメンテナンス

本製品は定期的なメンテナンスを必要とする製品です。4年ごとに当社の指定するサービススポットで製品のメンテナンスもしくはオーバーホールを受けるようにして下さい。

また、1年に1度は当社サービスエンジニアによる定期検査を受けるよう強くお勧めいたします。

当社技術部もしくは指定ディーラーによる定期検査では下記事項が重点的にチェックされます。

- 1) 内部パーツを含めた全てのコンポーネントを固定するねじがしっかりと取付けているかどうか、またこれらのねじ山がつぶれたり斜めに固定されていないかなど。
- 2) ランプ点灯回路各種。バラスト(安定器)、イグナイター(点火装置)やコンデンサーなど、一定のランプ出力を得るのに必要な各種部品が正常に作動しているか、またそれらの部品が焼けていたり膨張していたりしていないかなど。
- 3) ミラー、ヨーク、各種ホイールなど物理的に回転や動きをなす部分が適切に動作するかどうか、またこれらは消耗部品を使用しているため各種コンポーネントが摩耗したりしていないかなど
- 4) 電源および各種信号線のすべてが熱により劣化していないか、またそれぞれのケーブルが接触不要や短絡を起こしていないかなど。

この他にも、それまでの使用環境や時間などを事前にお聞きし、それぞれにできるだけ対応した検査項目を別途提案させていただきます。

危険!!!



メンテナンスをする際は、必ず電源プラグをコンセントから抜くこと!!



日常のお手入れは固くしぼったぬれぞうきん等を用いて(もちろん電源プラグはコンセントから抜いて下さい)行うようにして下さい。アルコールや有機性物質等を含んだクリーナー等は使用しないで下さい。

本体のオブジェティブレンズはフォグマシンの液体等が非常に付着しやすい環境にあるため、非常に短い期間で正常な光の出力を失ってしまいます。1週間に1度はレンズクリーナー等で清掃するようにして下さい。また、冷却ファンは1ヶ月に1度の割合で掃除機を使って付着した埃を吸い取るようにして下さい。本体内部のローテートゴボは柔らかい刷毛を用いて埃を除去します。本体内部にたまった埃やゴミ等は、掃除機やエアクリーナーを用いて

IF-1200 & 575 日本語取扱説明書

【許可なく複製および本文または写真の引用を禁止】©Copyright ACME Lighting Co.,LTD
本書の翻訳権はグラフィカ株式会社がライセンス契約により保持しており、著作権法で保護されています。

除去します。

カラーフィルターやゴボホイール、各種内部レンズに関しては出来れば月に1度の清掃をお勧めします。

ローテートゴボホイールのお手入れに関しては、6ヶ月ごとに機械用潤滑油を少しだけ注入することにより滑りの悪さや不快な音がずいぶんと改善されます。ただし、オイルは付けすぎないようにして下さい。かえってローテート部ベアリングの滑りを悪くし、ステッピングモーターの寿命を早めてしまいます。

本製品の内部はユーザー様で交換／修理が可能なパーツはランプ以外に一切ありません。恐れ入りますが上記のメンテナンス以外の事項に関しては、お手数ですが当社指定のサービススポットまでご連絡ください。

なお、ランプの交換に関しては前述の「ランプの取り付けと交換」セクションをご覧ください。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するときには交換前のヒューズを確認して、同じ形状の同じ許容電流および許容電圧のものをお使い下さい。

ヒューズを交換するときには必ず電源プラグをコンセントから抜いて下さい。

交換の手順:

- ステップ 1: リアパネル部分にあるヒューズホルダーを適切なマイナスドライバーを使って開けます。
- ステップ 2: 取り出したヒューズホルダーから古いヒューズを取り出します。
- ステップ 3: 新しいヒューズをヒューズホルダーに挿入します。
- ステップ 4: ステップ 1 と逆の手順でヒューズホルダーを本体に取り付けます。

交換用ヒューズは当社指定の純正品をお使いください。

ヒューズ切れ等の影響で電源コードに何らかの損傷がある場合はお近くの販売店もしくは当社指定のサービススポットにご連絡の上、交換をご依頼下さい。ユーザー様側で交換は一切行わないで下さい。ユーザー様サイドでの電気部品の交換は電気用品安全法に規定する 2 次改造にあたり、法令に違反する可能性があります。

本説明書に記載されていない事項でご不明な点がありましたら、どうぞ遠慮なくお近くの販売店にご相談ください。

8.製品の保証

この製品は当社の厳密な検査に合格して出荷されたものです。ご使用中に万一製造上の不備による故障が発生した場合は、別途保証書に記載された保証規定に従い保証期間に限り無償修理致します。

なお、本製品の保証期間は販売店よりお買い上げの日より換算して1年間です。

また、本製品は下記輸入元の正式な手続きを経て輸入されており、それ以外のいかなる者により国内に調達された製品に関してはどのような場合にあっても製品保証の対象外とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

This warranty program is valid only in Japan.

本製品に関する修理は原則としてサービススポットへのセンドバック(メーカー送り)による修理のみが対象です。したがって、修理期間中の代替機等の貸し出しの対象にはなりません。

修理に関する御相談先

▼国内輸入総代理店

グラフィカ株式会社 技術部

本社 〒703-8265 岡山市中区倉田295-15

TEL 086-239-0010 FAX 086-239-0020

www.graphica.ne.jp

※製品を送付される前に必ず御連絡をお願いします。その際、修理受付番号を申し上げますので番号をお手元におひかえいただきます様をお願いします。また、無償修理の場合保証期間内であることが証明された「製品保証書」が必要になります。それ以外の修理はいかなる場合においても有償となりますのでご了承ください。

また、製品の不具合、故障につきまして、販売店もしくは輸入元に送品する前にその症状、発生頻度などをできるだけ詳しく記載したメモを同封いただけますと迅速な修理が可能です。